

「2020年3月期 第3四半期決算」電話会議 質疑応答要旨

日時：2020年2月4日（火） 14時00分～14時35分

出席者：松島副社長

Q：Q3までは通期見通しに対する進捗が良いと思うが、通期の見通しを変えていないのはなぜか？通期見通しに関する変動要素として考えているのは何か？

A：前提として、当社はQ4の比重が高く、見通すのが非常に難しいというのがある。加えて、先ほど申し上げた情報通信事業グループにおけるベンダーの納期の懸念が若干ある。どこまで今期の売に入るのかが読みづらいということ。加えて、SEの稼働率も上がっており、これが今後も続くかどうか変動要因となる。また、不採算案件については、Q3までで6億円であるため、通期見込んだ15億円まではいかないと思うので、そのあたりの差し引きがどうなるかというところ。

Q：ベンダー側の供給面の不安はあるにしろ、需要面では心配していないということでしょうか？

A：深刻な心配はしていないが、1点だけお伝えするとしたら、5G-SAの国際規格の決定が遅れているため、SA案件が出始めるのが遅れる可能性があるということ。引き続き注視が必要。

Q：Q3（10-12月）売総率の改善要因およびQ4の見立ても教えてほしい。

A：Q3（10-12月）の売総率が前年同期比で+0.8pとなった理由は、モデル別の売総率が+1.0p改善したことが大きい。特に開発・SIの売総率は約+3.0p、製品も若干増加、サービスは横ばいとなった。その他、不採算が2億円発生したところにより▲0.1p、モデル別売上の構成比率において利益率の高いサービスの割合が増えたことにより+0.1p、利益計上を伴わない原価回収基準売上が+14億円増加したことにより▲0.3pとなり、合計で+0.8p増加した。売上構成比率など読めないところもあるが、Q4は通期計画の売総率24%の達成に向けて取り組んでいきたい。稼働率が上昇しており、それを差し引けば、売総率は上がっているのではないかと考えている。

Q：情報通信事業グループのQ3（10-12月）の受注の中身とQ4見通しは？前年度の反動減要素が150億円程あったと思うが、実際には118億円の減少なので、増加した要素があると思っている。増加したのは何か？また、今年度の下期で5G関連案件を100億円程度は取りたいと上期決算の時に話していたと思うが、どうなりそうか？

A：情報通信事業グループのQ3（10-12月）受注減について、前年度は、中規模の案件を含めると150-160億円の反動減要素があった中で約40億円挽回した。5G関連案件については上期で約80億円の受注があったとお伝えしていたが、Q3では約60億円受注した。前年度Q3（10-12月）の5G案件の受注は約90億円であり、反動減は約35億円に留まった。一方で、同様に反動減要素としてお伝えしていた災害対策用ネットワークについては、30億円ほど反動減が出た。その他、一部のモバイルコアの案件や、インターネットサービスプロバイダ向けのデータセンター案件などの反動減があった

が、5G 関連案件や 4G の拡張案件などがこれをカバーした。5G 案件については、下期の合計で 100 億円に達する可能性はあると思っているが、1 点懸念材料がある。米中貿易摩擦の影響で、日本で HUAWEI 製品が使えなくなったことにより、一部のベンダーに発注が集中している。そのため、納期の問題が発生するかもしれない。とは言え、引き合いはあるので引き続き注力していく。

Q：Q3（10-12 月）における流通事業グループの受注が前年同期比で減少しているが、理由を教えてください。また、主要顧客別に見通しを教えてください。

A：主な減少理由は、前年同期のコンビニやカード向け開発案件などの反動減があったことに加え、今年度一部の案件が若干期ズレしている。Q4 もその影響を受ける可能性がある。但し、コンビニやカード向けについては、全体的に引き合いは多く、採算性などを確認し利益率を意識しながら進めていく方針。今年度組織改編を行い、流通向け事業とカード向け事業が合わさったことにより、決済系のシステムなどに注力していく。

Q：Q3（10-12 月）における「その他」について、受注/売上の増加分の分解をお願いしたい。

A：受注は+3 億円。CTC アメリカの大手 ISP 向け案件の反動減で▲約 35 億円減少したものの、CTC マレーシアが好調で+約 30 億円、M&A をしたインドネシア 2 社の新規連結取込が+約 17 億円。売上は+55 億円。CTC マレーシアで+約 30 億円、M&A をしたインドネシア 2 社の新規連結取込が+約 25 億円となっている。

Q：M&A をしたインドネシアの企業は営業利益でどのぐらいの影響があったのか？

A：Q3（10-12 月）では、連結取込で 3 億円弱程。

Q：Q3（10-12 月）において管理会計上の調整は入った？

A：入っていない。

Q：短信に記載のあった「OMNIedge」や「Volterra」といった新しい取り組みについて、今後の事業展望や収益への貢献時期、競争力について教えてください。

A：「OMNIedge」は IoT、「Volterra」は 5G におけるエッジコンピューティング、エッジクラウドでの貢献を期待している。今年度は数字としては影響しないと考えている。来期にどのような事業展開するかを詰めている最中であり、来期の計画発表時に話せればと思っている。

以上